

平成 17 年度 長野県松本筑摩高等学校昼間定時制 評価表

昼間定時制教育目標	重点目標（中長期的目標）	総合評価		
単位制の趣旨と昼間定時制の特色を生かし、生徒・保護者のニーズに応える教育を行う。	単位制の一層の推進、充実を図るとともに、生徒が基礎学力・基本的な生活習慣を身につけ、活力ある学校生活を送ることができるようにする。	昼間定時制教育目標をすすめるための制度の基盤、教育方針がほぼ確立された。今後さらに必要な教育環境を整えていくことが重要である。		
	今年度の重点目標	成果と課題	評価	改善策・向上策
	1. 生徒一人ひとりの個性の尊重と自主性の育成 2. 集団生活の中でルールを守る態度の育成 3. 基礎学力の定着と進路指導の充実	1 個性を尊重し、生徒一人ひとりに対応した指導を行った。 2 多くの生徒は落ち着いた生活を送れたが、モラルに欠ける生徒の指導が課題である。 3 基礎学力を高め、自己の進路を考え実現させるために多くの取り組みを行った。	B	1 様々な場面において、より一層自主性の育成に取り組む。 2 生徒理解をさらに深め、今年度の取り組みを継続していく。 3 今年度の取り組みを継続しながら、新たな工夫をしていく。

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
教 育	教育課程	開講科目の充実	・生徒の希望を生かす講座の開講および講座編成ができたか。	3,4年次の講座編成に変更を加え、また特設授業の講座数も増やした。生徒の希望を優先し、人数調整を最小限にとどめることが課題である。	B	単位制にふさわしい開講科目を用意するには職員数を増やすことが不可欠である。
	学習指導	基礎基本の定着	・習熟度別授業を活用できたか。 ・生徒による授業評価をおこない活用できたか。	習熟度別授業は定着し、効果を上げている。 授業評価は、アンケート及び結果を職員間で公開することができた。生徒に対してその目的・意義を浸透させ、さらに学習指導に活用する事が課題である。	B	習熟度別授業のほかにも基礎基本の定着のために具体的な対策を研究し実施していく。
	生徒指導	不登校生などへの対応	・スクールカウンセラーなどと連携できたか。 ・カウンセリングなどの職員研修は充実できたか。 ・保護者との連携は強化できたか。	全職員参加の情報交換会およびカウンセリング研修会がほぼ毎月一回実施でき、職員相互の連携が強化された。そのため生徒の問題行動に対しても円滑に指導がなされ、家庭との連携も深まった。	A	定例化しつつある情報交換会および研修会を一層充実させ、職員相互の連携および個々の指導力の向上を図る。
		暴力やいじめの防止	・生徒・保護者との信頼関係は構築できたか。 ・職員相互に密な連絡がとれたか。 ・生徒・職員の人権感覚は向上したか。	喫煙や交通安全など問題行動についても、全職員協力のもと学校内外の巡回や視聴覚教材による指導が効果を挙げつつある。単位制実施に伴う空き時間の過ごし方などについては、至急研究を要す課題である。	B	問題行動に対しては引き続き粘り強く、対話と説得をもって指導に当たり、家庭との連携もより強化する。交通安全については校則の整備・指導法の工夫など研究を深めていく必要がある。校内の諸問題については生徒会との連携を強めていく中で解決の道を探る。
	交通安全指導	・街頭指導などを実施したか。				
活 動	進路指導	進路学習の充実	・進路講話 年次別進路ガイダンスが実施できたか。 ・ホームルーム等において「昼定ハンドブック」の活用ができたか。	全体にむけての進路講話、年次別の進路ガイダンスを実施し成果が上がったが、講師の選択や生徒の動機付けに課題が残る。「昼定ハンドブック」には卒業生の声なども載せ、ホームルームなどで広く利用できている。	B	年次毎のガイダンスの開催は今後の課題である。進路講話の回数は他の講話等とのバランスを考え調整したい。「昼定ハンドブック」は進路面をさらに充実させていく必要がある。
		進路選択意識の向上	・職業適性検査、進路適性検査、一般常識テストを実施できたか。 ・就職説明会、会社訪問、学校説明会参加等による進路先研究の指導ができたか。	職業適性検査、進路適性検査、一般常識テストを実施し、生徒の実態を把握できた。就職・進学説明会を実施し、希望生徒が数多く参加した。学校説明会参加も個々の指導においてはできた。会社訪問者の数が少なく、いかにして増やすかが課題である。	B	諸検査は今後も実施していけるよう配慮していく。 就職者の早期啓蒙も大事なので、会社訪問に結びつくまで地道に個々に指導を重ねていきたい。
		進路実現のための基礎学力の定着	・夏季・冬季補習が実施できたか。 ・長期休業中の課題指導ができたか。	夏季・冬季補習は実施できた。参加者は少ないながら充実した指導ができた。夏季休業中の課題指導はできたが、冬季休業については課題を残した。	B	参加人数を増やす工夫や、春季休業において課題指導ができるようにしたい。
	生徒会活動	くれき野祭の充実	・多くの生徒が主体的に取り組めたか。	生徒は「できることをやる」という点では主体的になった。「多くの生徒」の積極的参加を実現する具体策の断行が今後の課題である。	B	リーダーシップをとる生徒を育成し、主体性を向上させたい。「できることをやる」から「必要なことをやる」という意識レベルを高めるために職員が積極的に関わっていく。
	委員会活動の充実	・各行事に向けて委員会を中心に企画・準備し、活動に取り組めたか。	整美活動・体育祭・くれき野編集・朝の立ち番(花の水含む)・保健だよりなど各委員会活動の取り組みがみられた。より充実した活動のため、委員会活動をとりまとめる本部の求心力を強めることが課題である。	B	生徒会の「目標」を本部が中心となり掲げて委員会活動を充実させたい。	
学 校 運 営	地域との連携	公開授業・学校説明会の充実	・公開授業をさらに推進するとともに、充実した学校説明会をおこなったか。	公開授業(2回)、学校説明会とも実施した。学校説明会は130名を超える参加者があり、充実した会となった。	A	くれき野祭の弁論会などを一般公開し、本校をより理解してもらう機会をつくる。
	組織の運営	単位制の一層の充実	・「内規集」および「昼定ハンドブック」を整備し、活用できたか。	「内規集」「昼定ハンドブック」の改定を行い活用することができた。	A	「昼定ハンドブック」をもとに、履修指導と進路指導を統合していく。またそのための体制づくりを研究する。
		組織の充実	・学習指導と進路指導をより充実させるための組織づくりができたか。	進路指導を充実させる組織作りについてはまだ十分とはいえない。	C	
		校務分掌の検討	・仕事の分担は適正だったか。 ・意見を総括し協力体制を確立できたか。	校務分掌における協力体制はとれているが、仕事の分担についてはさらに効率的な体制をつくっていくべきである。	B	
研修	カウンセリング研修	・不登校生徒などへの共通理解をもつことができたか。 ・上記生徒への適切な対応をおこなうための研修ができたか。	ほぼ毎月の研修会が全職員参加のもとで実施でき、それぞれの指導に反映できた。また、スクールカウンセラーの助言も得て不登校生徒への理解を深めることができた。	A	多様な生徒への理解と対応が一層円滑に進むように、充実した研修を継続していく。	
	授業法の研修	・校内授業公開を実施したか。	校内公開授業を実施したが、時期・方法を検討する必要がある。	B		

\*評価 A：十分達成された B：ほぼ達成された C：不十分であった